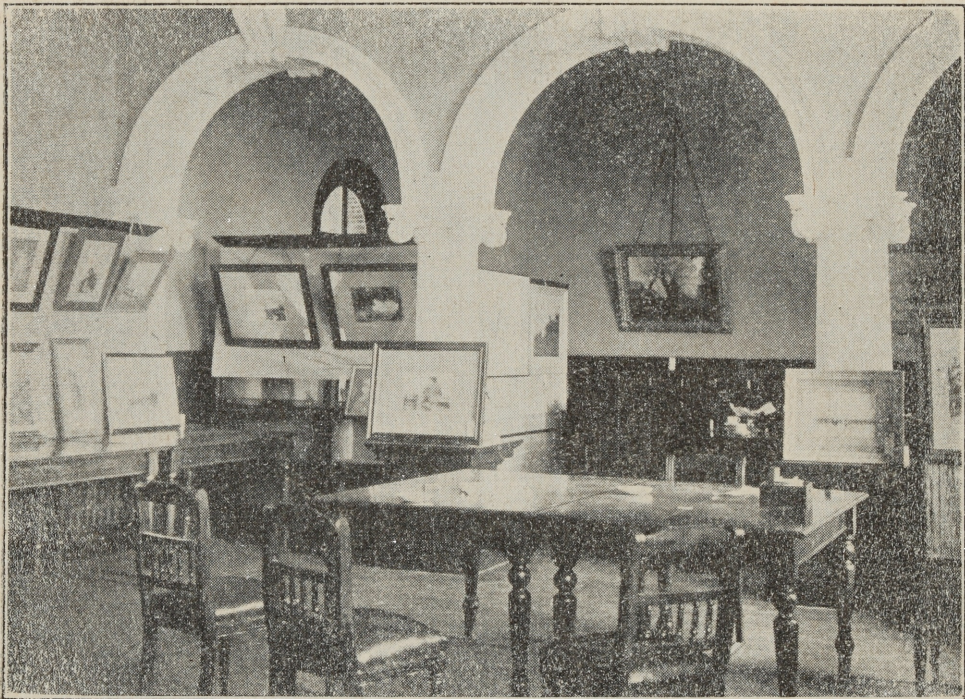


△ △ △

△フレデリック、ハリソン曰く美術  
展覧會の眞の害毒は、畫家の心に興  
ふる其道德的影響である。ある畫家  
は、此誘惑に打勝つ丈に強硬である、  
正直である。併し、此誘惑は絶えず  
活動して居る。

孰れの展覧會も、多少、一種の競争  
場たるを免かれん。而かも「目立つ」  
物が、大部分、公衆の眼を惹く競争  
場である。「眼に飛込まねばならん」  
而かも、輕調、愚劣、野卑なる眼に  
飛込まねば評判は取れん。評判の取  
れぬ畫家は公然技術を中止するに至  
る大危険がある。一越は絶えず高く  
なる。曲を奏するには、大袈裟な音  
樂會調か、或はこれ以上にやられねば  
何となく單調に聞える恐れがある。  
茲に於てか畫家は、色彩、面積、形  
状、圖題、額縁、汎ゆる智囊を絞つ  
て、眼を惹かん工風を盡した。而か  
も此工風を凝らしたる畫家は必ずし  
も劣等な者のみでない。



臺灣總督府中學校內水彩畫展覽會々々場

自己の藝を尊重する者は、斯の如き陋劣なる手段に屈從し得べ  
きものでない。故に高潔なる畫家は  
之を擯斥する。

眞の藝術家をして、斯の如き下劣な  
る競争者と闘はしめ、蕪雜なる周圍  
に依て、偉大なる美質を窒息し、下  
劣なる分子を奨励する、此展覧會如  
き手段に依て、新しきチシアン。ラ  
ファエルの現出を期待するは、我等  
の眞に耻づべきことである（岩村透  
氏『ぬきがき』東京美術學校々友會月  
報）

いさゝがばやなぎみどりに石し  
るし

小さめふるなり河鹿なくな  
り

みづうみのうへゆく霧をながめ  
つゝ

あやめ手にして岸にたゝす  
む